issa | EXCELLENCE IN SOCIAL SECURITY

年次報告

2021年/2022年

協働の年

*ISSA*の使命

世界規模での社会保障を推進

国際社会保障協会（ISSA）は、社会保障機関や政府の担当部門を繋ぐ、世界有数の国際組織です。ISSAは、優れた社会保障運営支援センターの一環として、専門的なガイドラインと能力開発の機会を世界中のISSA加盟機関に提供し、社会保障の重要課題に対する革新的ソリューションの提案、独自の国際データベース共有、そしてハイレベルな地域・国際イベントも開催し、優れた社会保障を推進しています。ISSAは、世界中の加盟機関のダイナミックな社会保障制度や政策の発展をサポートすべく、国際労働機関 （ILO） の後援のもと1927年に設立されました。

写真： ISSA; iStock; Adobe Stock; ESDC Canada;
G20. © International Social Security Association, 2021.

目次

04 会長メッセージ
ヨアヒム・ブロイアー博士

06 事務総長インタビュー
マルセロ・アビラミア・カエタノISSA事務総長

08 イベント
大きなイベントの年

12 世界のISSA
地域コミュニティと言語コミュニティ

14 ナレッジ
より活用しやすいナレッジを

16 国際社会保障レビュー
クシシュトフ・ハゲメエル編集長

18 ISSAオンラインイベント
協働とナレッジ構築

20 行動洞察
行動のレンズを利用して社会保障を改革

22 エクセレンス
グッドプラクティス賞受賞機関

24 ISSA言語コミュニティ
異なる国、同じ言語

25 国際女性デー
社会保障における男女平等

26 ソーシャルインクルージョン
移民労働者と国際協定

28 ビジョンゼロ
キャンペーンから戦略へ

30 ISSA
組織体制とガバナンス

32 オンラインコミュニティ
My ISSA – My Spaces

33 ナレッジとリソース

会長メッセージ

今年は国際社会保障協会（ISSA）史上最も忙しく、最もイベントの多い1年でした。ウェビナー、ディプロマコース、eワークショップ、ISSA役員会議、技術委員会フォーラムに加えて、7つの大規模なテーマ別および地域会議を開催しました。昨年開催されたISSAのイベントには全体で1万人以上が参加したとされています。

より広く、より遠くへ

これは、161か国における320の会員機関に対し、ISSAがいかに広く、深く関わっているかを示しています。コロナ禍において、私たちはあらゆる面で働き方のすみやかな改革を余儀なくされました。実際に開催されていた会議やイベントが急にオンラインで行われるようになったため、より多くの人々が私たちの活動に参加できるようになったのです。

その結果、社会保障制度の国際コミュニティは強化されました。国際的・地域的イベントにより多くの職員を巻き込み、専門知識やグッドプラクティス、視点を共有することで、さらに強力な社会保障運営の基盤を築き、質の高い、効率的な社会保障給付やサービスの提供を確保できるようになりました。

また、2022年5月には、2年以上ぶりに会員を実際のイベントに招待できたことも大きな喜びでした。タリンという美しい街で第16回ICT国際カンファレンスとヨーロッパ地域社会保障フォーラムの両方を主催してくださったエストニア国家社会保険委員会には非常に感謝しています。世界的な不安は続くものの、ハイブリッドなソリューションを駆使することで、これらの重大イベントに大勢の参加者を集めることもできました。

「これまでにないほど多くの人々がISSAのイベントや活動に関わりました」

国際紛争は、私たちに新たな課題をもたらしました。人々が家や仕事、教育、家族、友人、健康、命を失いつつある中、社会保障機関は今一度、危機下で重要な支援を提供する要となるでしょう。ISSAは状況の改善を図るため、連絡先の確保、ナレッジの構築、経験の共有などを通して会員を支援してまいります。

パンデミックは収束していませんが、世界各地で徐々に抑制されてきているように感じられます。ワクチンと感染後の免疫力を通して、人と社会の抵抗力が高まったこともあります。しかしながら、まだ警戒は必要です。ワクチンは世界中に平等に行きわたっているわけではなく、ウイルスの変異株が新たに発生する可能性もあります。

しかし、新たな課題の波が発生するときに、社会保障機関はこれまで以上に準備が整っているということは確かです。社会保障は、2020年初頭以来、パンデミックを通じて個人、雇用者、社会を支援する上で重要な役割を果たしてきました。そして、非常に高い機敏性、決断力、革新能力を示してきたと言えます。

この危機を通して、ISSAは会員の経験を収集、分析、共有することに焦点を当ててきました。私たちの目標は、社会保障機関同士で最大限にナレッジを共有し、会員が利用者と職員の両方のためにソリューションを見つけられるよう支援することでした。そこで、私たちはウェビナー、出版物、オンライン分析記事を通してこのナレッジ共有を行ってきました。これらすべての集大成は、2022年10月24日から28日までモロッコのマラケシュで開催されるCDG Prévoyance主催の世界社会保障フォーラムで発表され、議論される予定です。私自身、長年のISSA会長として感謝を示す機会でもあります。ここ数年は、人々の予想とは大きく異なるものとなりましたが、この困難な時期を共に乗り越えてきたことを本当に誇りに思います。

ISSA会長

ヨアヒム・ブロイアー博士

事務総長インタビュー

マルセロ・アビラミア・カエタノISSA事務総長は、社会保障に関する議論が新型コロナウイルスへの強い関心から徐々に離れつつあることを振り返ります。

新型コロナウイルスを超えて

ISSAにとって昨年はどんな年でしたか。

最も注目すべきは、わずか7か月半の間に7つの大型イベントを開催したことです。
9月から5月にかけて、労災世界コングレス、4つの地域フォーラム、2022年数理・資金投資国際カンファレンス、および2022年国際ICTカンファレンスを開催しました。大型イベントが集中したのは、コロナ危機の影響で過去のイベントが延期されたためです。最終的に、これらの主要プロジェクトのうち5つが初めてオンラインイベントとして開催され、2つについてはオンサイトとオンライン参加を組み合わせたハイブリッドソリューションとすることができました。策定したプログラムと、7つのイベントすべてで多くの方に参加していただけたことを嬉しく思います。

昨年、社会保障の世界はどのように変化しましたか。

特に感じたのは、議論の中心がもはや新型コロナウイルスから移りつつあることです。2020年初頭から2021年後半にかけてはすべての議論がパンデミック中心に展開されました。

とはいえ他のトピックを取り上げなかったわけではありません。さまざまな意味で、新型コロナウイルスは社会保障運営の各分野におけるイノベーションとトランスフォーメーションを加速する原動力となりました。これまでにないほど会員たちの関心を集め、ナレッジ共有をすることができたのです。
しかし、2022年半ば頃には他のトピックが議論されるようになってきました。同時に、国際紛争が新たな課題を提起したことを受け、社会保障機関は影響を受けた人々を支援するためにできる限りのことをしています。
その他の国際的社会危機と同様に、こうした取り組みの中でISSAは人権と社会正義に基づいて会員を支援していきます。

マルセロ・アビラミア・カエタノ
ISSA事務総長

ISSAとして会員に提供できる新しい製品やサービスはありますか。

ナレッジ創出に関しては、非常に好調な1年でした。ほぼ毎週、分析記事を作成し、ISSAのウェブサイトで公開しました。4つの地域報告書「社会保障の優先主題」と7つの技術報告書を作成しました。個人的には新しい「ISSAの行動洞察フレームワーク」と、国際労働機関（ILO）のリーダーシップのもとで発展した「移民労働者、難民およびその家族への社会保護拡大ガイド」を強調したいと思います。これらを実現できたのは、経験、グッドプラクティス、時間を提供し続けてくれる会員たちの貢献があったからこそであり、非常に感謝しています。

この先はどんな予定がありますか。

私たちは今、ISSAの3年間という事業年度のハイライトである10月の世界社会保障フォーラム（WSSF）に向けて全力で取り組んでいます。このイベントで非日常的だったここ数年を振り返り、今後いかにしてそこから学ぶかを考える機会となりそうです。WSSFは、モロッコのマラケシュでCDG Prévoyanceの主催で行われる予定です。会員たちとともに学び、繋がりを築き、質の高い時間を持てることを楽しみにしています。

イベント

ISSAにとって、これほど多くの大型イベントを短期間に開催するのは初めてでした。地域・国際会議はすべて2021年9月から2022年5月の間に行われ、現在は2020年から2022年の3年間の事業年度の会議プログラムを締めくくる、2022年10月の世界社会保障フォーラム（WSSF）の準備を進めています。

大きなイベントの年

労災世界コングレス

初めての国際会議となった第22回労災世界コングレス（The XXII World Congress on Safety and Health at Work）は2021年9月20日から23日に開催されました。
「つながる時代における予防-誰もが安全かつ健康に働けるグローバル・ソリューション」というテーマは、新型コロナウイルス出現のずっと前に決定されたものですが、パンデミックの影響で世界会議が初めてオンラインで開催されたため、さらに社会的な意味のあるものとなりました。
仕事のデジタルトランスフォーメーションや予防のための新技術の活用、社会的対話、メンタルヘルスの保護、グローバルな予防文化の促進などの問題が焦点となり、デジタルストリーミング・プラットフォームでは、120を超える国々から集まった2,000人の代表者に対し、知識交流やコネクションルームといったインタラクティブな場を提供しました。 ISSAは1955年からILOと協力して世界コングレスを開催しており、第22回目はカナダの労働衛生研究所(IWH)とカナダ労働安全衛生センター(CCOHS)が主催しました。

XXII World Congress on
Safety and Health
at Work 2021

20-23 September 2021 • Canada

ベルギー、コロンビア、エストニア、フィンランド、マレーシア、スペインのCEOとISSA役員・2022年国際ICTカンファレンスにて

数理・資金投資国際カンファレンス(ACT2022) – 数理担当者、統計学者、投資専門家による国際会議

第20回数理・資金投資国際カンファレンス（ACT2022）が2022年3月28日から31日の日程で初めてオンラインで開催されました。これらの職業にとって、社会保障分野における最も重要な世界的イベントです。
ACT2022は、現在の課題と、社会保障の持続可能性にとって極めて重要な長期的課題の両方に焦点を当てました。コロナ危機が社会保障プログラムに与えた影響は、現状を考えれば必然でしたが、影響の内容とその対処方法については、長期的な課題として扱われました。
131か国から集まった約1,000人の参加者が、介護の資金調達、グリーン経済への移行が社会保障プログラムに与える影響、投資と保険数理上の仮定を設定するために考慮すべきことなど、重要トピックを扱うさまざまなセッションに出席しました。

国際ICTカンファレンス(ICT2022)

情報通信技術（ICT）が社会保障運営やプログラムに及ぼす影響ははかり知れません。デジタルトランスフォーメーションは決して新しい現象ではありませんが、新型コロナによってこの分野の技術革新と導入のペースが大幅に加速しました。
社会保障における第16回2022年国際ICTカンファレンス（ICT2022）は、エストニア国家社会保険委員会の主催で2022年5月4日から6日までタリンで開催されました。エストニアは世界で最もデジタル化が進んだ国の一つとして有名であり、しばしば「E-stonia」と呼ばれています。
ICT2022では、「ひと中心の適応可能な社会保障のためのデジタルトランスフォーメーション」というテーマのもと、105か国から集まった650人以上の参加者がさまざまな課題、解決策、グッドプラクティスを探求し、議論する機会となりました。特に高い評価を得たイノベーションゾーンでは、ライブデモなどユニークな体験を通して学んだり、議論を交わしたりする機会を提供しました。

イベント

アフリカ地域バーチャルフォーラム

-全く新しいイベントプラットフォーム

アフリカ地域社会保障バーチャルフォーラムは、オンラインで開催された史上初のISSA地域フォーラムでした。アフリカ全土から800人以上の参加者の登録があり、ISSAの新しく、インタラクティブなバーチャルイベントプラットフォームの成功を示す形となりました。2021年10月5日から7日まで開催されたこのイベントは、ピアツーピアの共有、学習、つながりなどを体験できる場となりました。このバーチャルフォーラムを通して、アフリカの社会保障機関が技術移行に重点を置いていることが分かりました。新しいデジタルソリューションは、コロナ危機におけるビジネスの継続性とサービスの提供に不可欠であり、社会保障の適用範囲をこれまで以上に拡大するための取り組みにおいても戦略的に活用されました。

南北アメリカ地域バーチャルフォーラム

- 記録的な参加者数

南北アメリカ地域バーチャル社会保障フォーラムの参加数は1,000人を超えました。2021年12月1日から3日にかけて、参加者たちは新型コロナへの取り組みにおける社会保障の役割について議論に関わり、さらにリーダーシップ、イノベーション、年金、医療保険適用、ジェンダーへの配慮、予防などに関するセッションにも参加しました。

フォーラムのハイライトの一つは、経済協力開発機構（OECD）のアンヘル・グリア前事務総長との対談でした。彼は、非公式経済、特にデジタル化された労働市場への取り組みを強調し、社会保障プログラムを可能な限り充実させるための革新的な措置が必要だと強調しました。

アジア太平洋地域バーチャルフォーラム
- ダイナミックな大陸

2022年2月22日から24日まで開催されたアジア太平洋地域社会保障バーチャルフォーラムは、社会保障開発の観点から地域のダイナミズムを示しました。社会保障制度の成熟度には大きなばらつきがあるものの、この地域の社会保障機関はパンデミックやその他の分野において優れた機敏性と革新的な推進力を示しています。国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)のアルミダ・アリシャバナ事務次長兼事務局長との特別対談が実現しました。彼女は、新型コロナに見られたような、新たなリスクを伴う複雑な世界において、大衆のニーズを満たす社会保護の基本的役割について概説しました。

ヨーロッパ地域フォーラム
-ようやく直接会うことができました

ヨーロッパ地域社会保障フォーラムは、2年以上のオンラインイベントを経て直接会うことができた初めての機会でした。 2022年5月2日から3日までエストニア国家社会保険委員会によってタリンで開催された地域フォーラムは、地域全体のメンバーが社会保障の発展を評価し、今後数年間の優先事項を議論する絶好の機会となりました。
なおも移動が困難な人々もいるため、オンライン参加も可能なハイブリッドソリューションが採用されました。社会保障、ソーシャルインクルージョン、急速な高齢化における管理慣行などが広範に議論されました。デジタル化と技術変革も普遍的なテーマでした。

ヨーロッパ地域社会保障フォーラムのグッドプラクティス賞授賞式

世界のISSA

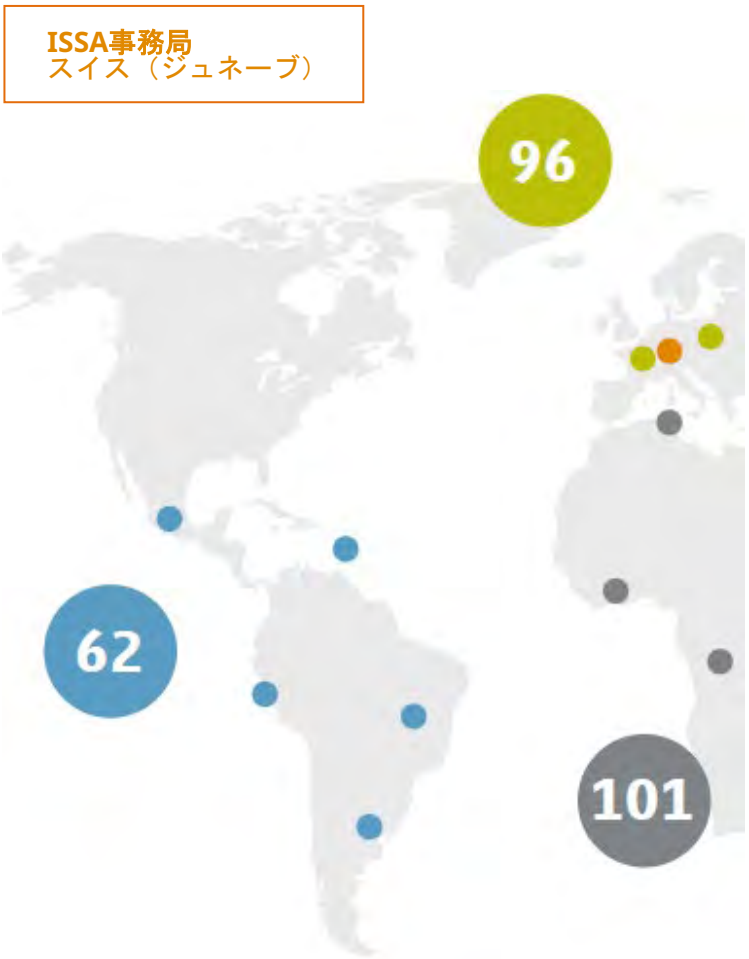
ISSAは、ISSAの会員機関が主催するフォーカルポイントと連絡事務所のネットワークを通じて世界に働きかけています。

161か国　320加盟機関

ISSAは地域組織を通じ、地域全体または特定の言語コミュニティ内での社会保障に関する協力の強化を実現しています。

主催機関は、ISSAプログラムの優先事項に沿った支援と活動促進の手助けとなるリエゾンオフィサーを任命します。人気があるのは、主催機関が特定のニーズや関心事に応じて企画する多くのISSAウェビナーです。

過去12ヶ月の間に、フランス語諸国フォーカルポイントが新組織として立ち上げられ、ポルトガル語圏のフォーカルポイントも再発足しました。また、アラブ諸国フォーカルポイントはヨルダンの社会保障公社からクウェートの社会保障公共機関に、アフリカ北部連絡事務所はアルジェリアの従業員のための国家社会保険基金（Caisse nationale des assurances sociales des travailleurs salariés - CNAS）からチュニジアの国家社会保障基金（Caisse nationale de sécurité sociale - CNSS）に移りました。新旧双方のホストによるISSAへのサービスと貢献に感謝します。



ISSAの代表

アフリカ

アフリカ中部連絡事務所

国民社会保障基金
コンゴ民主共和国（キンシャサ）

アフリカ東部フォーカルポイント

東中央アフリカ社会保険協会

ケニア（ナイロビ）

アフリカ北部連絡事務所

全国被用者社会保険基金
アルジェリア（アルジェ）

アフリカ南部連絡事務所

エスワティニ国民準備基金

エスワティニ（マンジニ）

アフリカ西部連絡事務所

国民社会保険基金

コートジボワール（アビジャン）

南北アメリカ地域

アンデス諸国連絡事務所

デラママジステリアル
ペルー（リマ）

英語圏カリブ諸国連絡事務所

セントビンセント及びグレナディーン諸島国民社会保障機関セントビンセント及びグレナディーン諸島（キングスタウン）

北中米連絡事務所

国家被用者社会保障・社会サービス機関

メキシコ（メキシコシティ）

南米コーノスール連絡事務所

国民社会保障機関
アルゼンチン（ブエノスアイレス）

ポルトガル語諸国フォーカルポイント

国家社会保障院
ブラジル（ブラジリア）

アジア太平洋地域

アラブ諸国連絡事務所

社会保障公社

ヨルダン（アンマン）

東アジア連絡事務所

国民医療保険公団
大韓民国（ソウル）

南アジア連絡事務所

被用者国家保険公社

インド（ニューデリー）

東南アジア連絡事務所

社会保障機関

マレーシア（クアラルンプール）

中国加盟機関フォーカルポイント

人的資源社会保障部
中国（北京）

太平洋諸島国フォーカルポイント

フィジー国民準備基金

フィジー（スバ）

ヨーロッパ地域

ISSAヨーロッパネットワーク

社会保険機構
ポーランド（ワルシャワ）

ユーラシア連絡事務所

ロシア連邦年金基金
ロシア連邦（モスクワ）

フランス語諸国フォーカルポイント

フランスISSA会員機関調整委員会
フランス（パリ）

ナレッジ

ISSAはナレッジ創出を強化しました。加盟機関の経験とグッドプラクティスの共有に基づいて、より多くの報告書や分析が作成されています。ISSAの新規ガイドラインや改訂も進行中です。
新しいISSAオンラインライブラリーから、これらのすべてにアクセスすることができます。

より活用しやすいナレッジを

2020年に新たな3年間の事業年度が始まって以来、ISSAはナレッジ創出の強化に注力してきました。ISSAのイベント、グッドプラクティス賞のコンテスト、技術委員会や地域組織の活動は、長年に渡ってナレッジの宝庫であり、そのナレッジをより多く引き出し、分析し、会員のアクセス性を改善することが課題でした。
そんな中、パンデミックはいろいろな意味でナレッジ創出のブースターとなりました。ISSAは分析記事、専用のウェビナー、関連社会保障措置の国別データベースを備えた、新型コロナウイルスモニターを迅速に開発しました。これは、パンデミック中も会員にとって貴重なツールとなっており、その品質は国際的に認められています。
3年間の事業年度の初期段階では、パンデミックへの社会保障の対応が注目されましたが、ISSAのナレッジ創出は昨年、はるかに多様なアプローチを示しました。
ISSAのウェブサイトの新しい分析セクションでは、行動洞察、データ分析、介護、サービス品質、ジェンダーに基づく社会保障など、さまざまなトピックに関する記事を特集しています。

2021-2022年に発行された ISSA技術報告書のトピック

- 行動洞察
- サイバーセキュリティ
- デジタルインクルージョン
- デジタル業務の復旧力
- 人材管理
- 国際協定
- 介護
- 移民労働者

グッドプラクティスとウェビナー

2020年から2022年にかけて、ISSAグッドプラクティス賞の4つの地域コンテストには合計約500件のエントリーがあったように、ISSAは会員からの豊富な経験を引き出すことができます。さらに、このようなグッドプラクティスは、ISSAのウェビナーやその他のイベントで議論のベースとなります。このため新たな側面を分析のベースに加えることになります。
ウェビナーは、ISSAにおけるナレッジの共同創出の強力な手段となっています。

2020年以来、120を超えるウェビナーが企画され、何百という実践例が提示・議論されています。さらに、すべてのウェビナーの記録はISSAのウェブサイトで入手可能であり、全ISSA会員機関に永続的なナレッジソースを提供しています。

報告書および出版物

昨年、4つのISSA地域フォーラムそれぞれについて基幹報告書である社会保障の優先主題が作成されました。これらは、運営、対象範囲の拡大、高齢化、ソーシャルインクルージョン、コロナ危機への社会保障の対応など、社会保障機関にとって普遍的なトピックをカバーしてきました。
ISSAは昨年、技術報告書とガイドを複数公開しており、個別の調査結果等を見ることができます。さらに、多くのISSA技術委員会が、2022年10月の世界社会保障フォーラムで発表される新しい報告書とガイドラインを作成中です。

ISSAオンラインライブラリー

新しいISSAオンラインライブラリーでは、すべてのISSAナレッジへのアクセスが改善されます。単純な単語検索またはファセット検索を通じて、分析、出版物、グッドプラクティス、ガイドライン、イベントや、特に関心のある事柄を簡単に見つけることができます。

国際社会保障レビュー

ISSAの主要研究出版物である国際社会保障レビュー（ISSR）では、学術の質に関する批判的分析研究と比較研究を公表しています。また、ISSAの主な優先事項に取り組むための特別号も発行しています。ISSAの会員は、レビューに無料でアクセスできます。

ISSA会員のための トップ研究への独自アクセス

*ドイツ応用科学大学Hochschule Bonn-Rhein Sieg (H-BRS) の名誉教授でもある**クシシュトフ・ハゲメエル**ISSR編集委員会議長にインタビューしました。*

特に世界中のISSA会員組織にとって、ISSRで発表された研究の重要性は何だと思いますか？

協会の使命は、社会保障とその社会的・経済的影響に関するナレッジ開発と普及の支援、よく設計・管理された社会保障機関の推進、そしてあらゆるレベルにおける多国間機関や利害関係者との協力です。

ISSA会員機関やその他の機関が貧困の解消、経済の促進、財政、その他の社会生活面において社会保障プログラムを実施する時、唯一の信頼できるナレッジとエビデンスとなるのが質の高い研究です。

ISSA会員機関による社会保障政策の立案や実施は、質の高い研究によって提供されるナレッジなしには不可能であり、社会保障におけるグッドガバナンスの基礎を形成しています。

これらの重要な目標達成を支援し続けるために、ISSRはどのように発展していくと思いますか？

不安と危機が存在し続けるこの世界では、新たな研究を発表するISSRの役割は依然として不可欠です。
3年間の事業年度ごとに、ISSAの会員は研究と分析のための重要な優先事項を定義しています。特別号では特に顕著であり、ISSR編集委員会による厳格な査読プロセスによって質の高い研究が発表されています。このジャーナルは社会保障コミュニティと共有され、非常に尊重されています。ISSA会員の事業上の優先事項とジャーナルの分析結果は密接に関わり合っているのです。

ISSR編集委員会

国際的パートナーシップとナレッジ共有

3年間の事業年度ごとに事務総長によって任命される編集委員会は、査読・編集プロセスと記事選択の指導を行います。これが、特別号やテーマ特集といった将来的な刊行物の企画に役立ち、記事や寄稿の見通しや委託において大事な役割を果たします。編集委員会は、社会保障政策と運営を研究する、国際的に著名な上級研究者の諮問委員会によって支援されています。
クシシュトフ・ハゲメエル編集長の管理下にある外部編集委員は、ウーター・ヴァン・ギネケン副編集長、ウィリアム・アダマ（OECD）、クリスティーナ・ベーレント（ILO）、カチャ・フージョ（UNRISD）です。

今後の社会保障制度、ひいては主要な研究テーマにとって、何が大きな課題になると思いますか？

今後も、社会保障のグッドガバナンスと社会保障制度の質が最重要課題であり続けるでしょう。グッドガバナンスは信頼を生み出し、社会保障のための十分な政策と財政の余地を作る社会の意思を支えます。社会保障が包括的な成長と社会的結束を高めるかについての研究証拠も重要です。人々の高齢化が年金、医療、介護の資金調達にどのように影響するか、移民や避難民のための十分な社会保障をどのように確保するかなど、人口動態の変化に起因する課題もあります。

ほとんどの国では、限られた範囲の居住者にしか社会保障が適用されません。その適用格差を埋める方法については、最優先で検討される必要があります。デジタル経済や新しい形態の仕事、進化する雇用関係などは、適用範囲が広い国であっても課題とするところです。また、構造を調整することによって生じる社会への悪影響を緩和させるため、グローバリゼーション、気候変動、グリーントランスフォーメーションなどに対応した社会政策が求められています。新たなニーズを満たすため、社会保障には革新が必要なのです。そして、このようなイノベーションは質の高い研究成果によって支えられているため、ISSRは今後も重大な役割を担っていきます。

www.issa.int/review

ISSRの概要

- 社会保障の分野における主要国際雑誌
- ISSAで最も古い刊行物：75年
- Wileyによって四半期ごとに発行される論文とeジャーナル
- 1年に60,000ダウンロード
- ISSAのコアトピックと地域のテーマに関して特別号を1年に1回発行
- 発行は英語。アラビア語、中国語、英語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語の要約付き

ISSAオンラインイベント

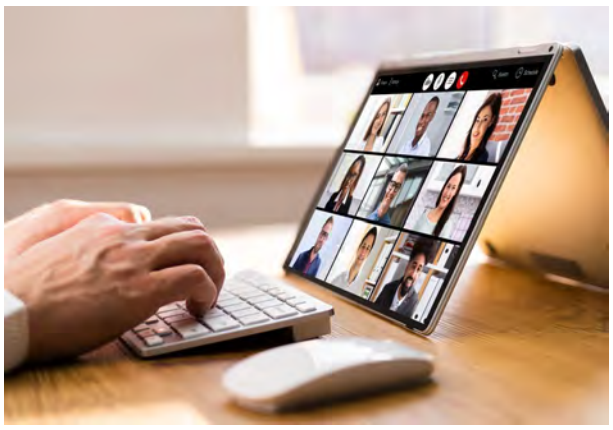
ISSAウェビナーとオンラインイベントは、協働とナレッジ創出の素晴らしい源であり続けています。これほど多くの会員が、イベントの講演者、パネリスト、参加者として活動した例は過去にありません。これにより、会員同士の経験やグッドプラクティスの共有が強化されています。

協働とナレッジ構築

コロナ危機によってすべての活動がオンラインで行われるようになった2020年3月、ISSAは最初のウェビナーを開始しました。
それ以来、ISSAは数々の大型イベントに加え、120以上のウェビナーを開催しています。
8ページから11ページで触れたように、ISSAは2021年半ばから2022年半ばにかけて、オンラインまたはハイブリッド形式で7つの主要イベントを開催し、多くの出席者を集めました。
「オンライン革命」は、色々な意味でISSAの会員を巻き込み、状況を一変させました。職場や自宅のオフィスからイベントにログオンできるようになったため、これまでより多くの人が参加できるようになりました。2020年以降、ISSA会員機関の9,200人の職員がイベントに参加するためにISSAウェブサイトでアカウントを作成しました。
3カ国語または4カ国語で同時通訳を提供することで、多くのバーチャルイベントがさまざまな地域から熱心な聴衆を集めました。また、24ページの記事で詳しく説明されているように、ウェビナーによって地域組織や特定の言語コミュニティ内で多くの協力や交流が生まれました。

ナレッジ創出への貢献

ウェビナーなどのオンラインイベントは単なるナレッジ共有にとどまらず、ナレッジ創出の原動力ともなりました。ユニークな経験と視点を持つ講演者やパネリストがウェビナーに参加することで、人々は共通の関心事についてのアイデアを発展させたり、意見交換をしたりする機会を得られました。
ウェビナーは、ISSAのウェブサイト上で定期的な分析記事を提供するだけでなく、質の高い出版物を作成する上でも実験室のような役割を果たしています。



その一例が、2020年11月に始まった介護に関するウェビナーシリーズです。
ウェビナーの中には、南北アメリカ、東アジア、ヨーロッパ、ユーラシアなど、地域の視点を取り入れたものもあれば、国際的な戦略や経験、グッドプラクティスに焦点を当てたものもあります。また、健康との関連性や共済給付組合の経験に焦点を当てた、話題性の高いものもあります。
これらは、2021年10月に発行されたISSA報告書「介護に関する報告書:国際的な取り組みおよび医療的視点での世界的論点」の作成に使用されました。
もう一つの例は、ISSAが過去数年にわたり会員に強調してきたテーマ、行動洞察に関するウェビナーです。

このテーマのISSAウェビナーは、2021年11月に発行された新たなISSAの行動洞察フレームワークにも加えられました。これについては20ページから21ページで詳しく説明しています。最後に、専用のウェビナーシリーズは、2022年6月発行の報告書「デジタルインクルージョン: 社会保障サービス提供の改善」の作成に貢献しました。

多くの参加者と組織

私たちのウェビナーやその他のバーチャルイベントには、ISSAの地域全体を通して多数の参加があります。ウェビナーを見ると、参加者の27%がアフリカ、29%が南北アメリカ、20%がアジア太平洋、24%がヨーロッパからでした。
ウェビナーはサブ地域にとって特に重要であり、さまざまなISSAのフォーカルポイントと連絡事務所が特に関心の強いウェビナーの企画に尽力しました。
また、ISSAの技術委員会がウェビナーを企画する上で中心的な役割を果たし、社会保障の特定分野における課題推進に役立っています。

ウェビナーシリーズ

ISSAは2020年から2022年の3年間の事業年度の優先事項にリンクした特別なトピックに関する一連のウェビナーを行いました。

- **新型コロナウイルス**
- **デジタルインクルージョン**
- **医療の適用**
- **介護**
- **リハビリテーション**

eワークショップ

ISSAが試験的に行ったeワークショップは大成功を収めたため、現在は協会の標準製品やサービスにも取り込まれています。

重要な機能 – ウェビナー

- **122のウェビナー**を実施
- 会員やパートナー機関から**435人の発表者**
- 全体で**19,200人の参加者が登録**
- **平均157人**の参加者が登録
- 平均で**43機関**
- 平均で**42カ国**

2020年3月から2022年6月までのすべてのウェビナー含む。

イベントのアーカイブ

ウェビナーやその他のバーチャルイベントを逃した場合は、ISSAのウェブサイトでいつでも視聴することができます。すべてのバーチャルイベントは録画されているため、ISSAの会員は各イベントのウェブページからアクセスすることができます。

行動洞察

行動洞察（BI）のアプローチは、社会保障の利用者中心の運営を拡大し、深化させるためのパワフルなツールを提供します。その最終目標は、社会保障の成果を政策目標に近づけることです。ISSAは、会員機関によるBIツールの使用を支援し、強化するためのBIフレームワークを開発しました。

行動のレンズを利用して社会保障を改革

ISSAの会員によって、行動洞察を駆使した政策、プログラム、サービス革新の度合いは異なります。ですが、初心者でもリーダーでも、BIのアプローチによって大幅な向上が可能です。経験に基づいた手法が、行動洞察の適用を支えます。発見フェーズには、課題の行動的ルーツに焦点を当てた分析手法が含まれ、結果に影響を与えるために証拠に基づく行動介入を使用します。

行動レンズを分析ツールとして使用することで、適用拡大、納付義務遵守、不正および回避予防などの分野での成果を上げることができます。また、モバイルアプリケーションやオンラインソリューション などの新しい経営手法を使用して利用者のニーズへの対応を改善する、新鮮で創造的な視点が得られます。

2021年12月に開始されたISSAの行動洞察フレームワークは、マレーシアの社会保障機構（PERKESO）の最高経営責任者兼総局長であるモハメド・アズマン・ビン・アジズ・モハメッド博士が議長を務めるISSA組織・管理・革新技術委員会との緊密な協力のもとで開発されました。このフレームワークは、FORGOOD（下の表を参照）という頭字語で要約された、7つの中核的な道徳的配慮に基づいています。

公平性（Fairness）	行動方針には望ましくない再分配効果があるか？
オープン性（Openness）	行動方針はオープンか、それとも隠された操作的なものなのか？
尊重（Respect）	人々の自主性、尊厳、選択の自由、プライバシーを尊重する政策なのか？
目標（Goals）	行動方針は正当な目標に役立つのか？
意見（Opinions）	人々は行動政策の手段と目的を受け入れているか？
オプション（Option）	より良い政策が存在し、それが正当化されるか？
委任（Delegation）	政策立案者には、委任された権限を使って微調整する権利と能力があるか？

フレームワークに記述された組織の能力と方法は、ISSAのグッドガバナンスに関するガイドライン、サービス品質に関するガイドライン、保険料徴収・納付義務遵守ガイドライン、社会保障運営によるコミュニケーションに関するガイドライン、および情報通信技術に関するガイドラインに関連しています。ISSA会員は、バーチャルイベントを通じてBIツールの適用に関する経験を共有しています。ISSAのグッドプラクティスデータベースは、実例を得る上での新たなナレッジソースとなっているのです。

ISSAのグッドプラクティスデータベースからの例

フィンランド：社会保険機構(Kela)は、特定グループの人たちがプログラムの給付金を申請できるよう、コミュニケーション戦略の中で行動洞察を用いています。

ケニア：ケニアの地方自治体年金信託(LAPTRUST)は、人々が無意識のうちに老後に向けた貯蓄を行えるよう、テクノロジーを駆使しています。

シンガポール：中央準備基金委員会は、ミレニアル世代が将来について考え、計画を立て始 める ことを奨励 する#ICanAdultインスタグラムキャンペーンを実施しました。

エクセレンス

2020年から2022年の3年間の事業年度で開催されたISSAグッドプラクティス賞の地域コンテストでは、どれも記録的な数のエントリーがありました。ここに4受賞機関を発表します。

グッドプラクティス賞受賞機関

ヨーロッパ地域2022

受賞機関：

スウェーデン年金庁

グッドプラクティス：

年金引き出しプランナー

スウェーデン年金庁（*Pensions-myndigheten*）は、年金引き出しプランナー（*Uttagsplaneraren*）がヨーロッパ地域のISSAグッドプラクティス賞に値するとして評価しました。これは、さまざまな資金から年金を計画的に引き出すためのデジタルツールで、国と民間の両方の年金貯蓄を含みます。退職間近の個人が安心かつ簡単に年金の計画を立て、引き出すことができるようにする目的があります。利用者は将来の見通しを立てるだけでなく、個人の価値観や情報をToDoリストにまとめることができます。このコンテストには20カ国の32機関から合計96件の応募がありました。

アジア太平洋地域2021

受賞機関：

インドネシアBPJS Kesehatan

グッドプラクティス：

国家健康安全保障プログラム

インドネシアの保健社会保障管理機関(BPJS Kesehatan)は、世界最大の単一支払者医療政策を実施し、アジア太平洋地域のコンテストで勝利しました。

BPJS Kesehatanは、この医療保護政策を通じて加入者を2014年の1億3340万人から2020年の2億2240万人へと増やすことに成功しました。同時期の顧客満足度は78.6%から81.5%に改善しました。このグッドプラクティスは、19か国における30の社会保障機関から168件にも登る記録的な応募があ った中でトップでした。

アフリカ地域2020

受賞機関：

コートジボワール社会保険機関

グッドプラクティス：

e-Contributionsアプリ

コートジボワール社会保険機関-National Social Insurance Fund（Institution de prévoyance sociale-Caisse nationale de prévoyance sociale -IPS-CNPS ）は、e-Contributions（e-Cotisations）アプリを通じて事業主の社会保険料自動化を実現し、アフリカのコンテストで受賞しました。
このツールは、新しいe-CNPSウェブプラットフォームの一部として開発され、展開されました。このアプリでは、事業主が社会保険料を申告する際、拠出金が支払われる各労働者の名前と報酬が表示されるようになりました。このコンテストには、27か国の36団体から97件の応募がありました。

スウェーデン年金庁は、2022年ヨーロッパ地域グッドプラクティス賞を受賞しました。

南北アメリカ地域2020

受賞機関：

カナダ雇用社会開発省

グッドプラクティス：

アクセラレーションハブ

カナダ雇用社会開発省（ESDC）は「サービストランスフォーメーション：デザイン思考とアクセラレーションハブ」で南北アメリカコンテストのグッドプラクティス賞を受賞しました。画期的な構想を通して、サービス提供を促進させる総合的なアプローチが採用されています。
リアルなデザイン思考プロセスと、俊敏かつ反復可能なデザイン手法を通じて、被用者、利用者、パートナーから斬新なアイデアが集められました。その中で最高のアイデアは、利用者中心のサービスソリューションになりました。ESDCは、実態のあるイノベーション空間のアクセラレーションハブを作成することで、この構想を一歩前進させました。このコンテストには18か国、30の社会保障機関から138件の応募がありました。

「すべての地域のISSA会員から、受賞者に加え、優れたグッドプラクティスをたくさん受け取っています」
マルセロ・アビラミア・カエタノISSA事務総長

1,300のグッドプラクティス

ISSAのグッドプラクティスデータベースでは、1,300以上のグッドプラクティスが利用可能です。

www.issa.int/gp

ISSA言語コミュニティ

ISSAは多言語が行き交うグローバルコミュニティですが、共通の言語と文化をベースに緊密な協力関係を築きたい機関に対し、支援を強化しています。

異なる国、同じ言語

アラビア語圏

2022年2月、クウェート社会保障公共機関がアラブ諸国連絡事務所を引き継ぎました。ヨルダン社会保障公社による長年のサービス提供を経て、新しいホスト国は中東アラビア語圏における機関同士の協力を強化させることに意欲的です。

フランス語圏

フランス語諸国フォーカルポイントは2022年3月に発足しました。フランスのISSA会員機関調整委員会（Coordination des institutions françaises membres de l’AISS - CIFM-AISS）は、世界のフランス語圏における社会保障機関同士で対話や協力ができるよう、ユニークな場を提供しています。このフォーカルポイントはアフリカとヨーロッパを中心に、カナダを含む30カ国以上をカバーしています。

ポルトガル語圏

2021年9月、ISSAのポルトガル語諸国フォーカルポイントが「再発足」しました。ポルトガル語圏には多国間社会保障協定もあり、制度面での協力は一層強化されています。このフォーカルポイントはブラジルの国立社会保障機（Instituto Nacional do Seguro Social INSS）により運営されており、アフリカとヨーロッパの機関が含まれています。

世界全体

ISSAは、言語や地域性に基づいた19のフォーカルポイントや連絡事務所を世界中に持っています。

その他の言語コミュニティ

英語圏カリブ諸国フォーカルポイントは2021年3月にスタートしました。中国会員のためのフォーカルポイントは、長年にわたり中国本土と香港・マカオ特別行政区の間でメンバー同士の協力と繋がりを促進してきました。

国際女性デー

進展は見られるものの、社会保障における男女平等を確保するためにはさらなる努力が必要です。ISSAは、2022年3月8日の国際女性デーに関連して、社会保障分野の女性指導者4人にインタビューを行いました。ここでは、これらのインタビューからの抜粋をご紹介します。

社会保障における男女平等

「社会保障は支援、保護、平等を提供していますが、ジェンダー平等を実現し、女性が平等な機会を持つことを保証するためには、さらに社会の障壁を取り除く必要があります」

ベルギー補助失業給付基金
カレン・デ・サッター最高責任者代理

「女性にまともな仕事を提供し、年金や給与の格差を減らし、女性だけでなく家族全体が高齢者、子供、障害者の世話をできる平等な社会を、私たちは必要としています」

グアテマラ社会保障機関
アナ・マリリン・オルティス・ルイス理事長

「私は、あらゆる側面でジェンダー平等を促進し、女性と少女に力を与えることが、より平和で、包括的で、繁栄的な世界を築くための最善策であると信じています。社会保障機関は、ジェンダー平等を推進する上で重要な役割を担っています」

カナダ雇用社会開発省
クリステン・アンダーウッド
上級年金政策事務局長

「社会保障制度をデザインするにはジェンダーという側面を考慮することが不可欠です。正規雇用者だけでなく、全部門の女性が給付を利用できるようにすべきです」

チュニジア国民健康保険基金
レイラ・ナイジャ事務局長

www.issa.int/iwd2022

ソーシャルインクルージョン

生まれ故郷の国を離れて暮らす人は、世界で約2億8100万人います。多くは出稼ぎのために海外へ渡ったり、家族とともに移動したり、国を追われて避難しています。ISSAは、社会保障の適用範囲を広めるための制度的アプローチに取り組んでいます。

移民労働者と国際協定

生活の糧を得て家族を養うために海外に移住することができるグローバル経済が、当たり前になりつつあります。同時に、世界的なパンデミックや自然災害、紛争などによって、人々の置かれた現実は急速に変化しています。このような状況の中、移住者は他の国民よりも弱い立場に立たされることがあります。移民労働者や難民と、その家族が十分な社会的保護を受けられるようにすることが急務となっています。
2021年11月、国際労働機関事務局(ILO)がISSAとILO国際トレーニングセンター(ITCILO)の協力を得て、移民労働者、難民およびその家族への社会保護拡大：政策立案者と実務者のためのガイドを出版しました。

これらの問題に関する長年のコラボレーションが実る形となり、本ガイドを提示した上で、以下の項目に焦点を当てたウェビナーが2022年3月に開催されました。

- 社会的保護へのアクセス障壁の明確化
- 移民労働者とその家族に社会的保護を拡大する取り組み
- 国、制度の慣行に基づく政策オプション
- 労働者と事業主の視点

ガイドとウェビナーの録画はISSAのウェブサイトで視聴できます。

国際社会保障協定

社会的保護への適切なアクセスを確保する上で要となるのが国際社会保障協定です。ISSAは、多国間および二国間の両方で、協定の包括的な研究に着手しました。「国際社会保障協定の概要」という報告書が2022年1月に公表され、以下の項目について触れています。

- 約645の二国間協定と10の多国間協定が発効している。
- 二国間および多国間協定は急速に成長している。
- ヨーロッパ諸国が最も多くの協定を結んでいるが、他の地域も急速に追いつきつつある。

この報告書の後には、ISSAによる国際的な社会保障協定とガイドラインに関する包括的なオンラインデータベースが実現します。ISSA会員機関は、移住者の社会保障を確保するためのアプローチを強化すべく、貴重な情報とツールにアクセスできることになります。さらにISSAは、BRICS諸国が社会保障に関する密な協力関係を築けるよう取り組んでいます。

ISSAのその他のツールとサポート

2014年、ISSAは「移民労働者への社会保障適用拡大ハンドブック」を発行しました。他にも役立つISSAガイドラインはたくさんあります。例えば、「情報通信技術に関するISSAのガイドライン」は、国や機関同士のデータ交換についてガイダンスを提供しています。国際協定や移民労働者に関しては、このような問題が極めて重要です。

ビジョンゼロ

職場の安全、健康、福利のためのビジョンゼロキャンペーンが開始されてから5年近くが経ち、安全衛生の専門家、企業、社会保障機関、国際機関などの戦略的ツールとして成長してきたことは間違いありません。

キャンペーンから戦略へ

ビジョンゼロの7つのゴールデンルールは当初から好評でした。2017年9月にシンガポールで開催された第21回世界労働安全衛生会議を皮切りに、多くの支持者がこのキャンペーンに集まり、今日では16,000を超える企業、団体、安全衛生トレーナーへと成長しました。成長しました。しかし、もはや重要なのは数字ではなく、ビジョンゼロのアプローチとそのツールの戦略的な使用です。ISSAとILOはこの問題に密接に取り組んでおり、労働安全衛生に関する世界的連合の戦略目標やILOビジョンゼロ基金、そして2021年から2027年までの職場の健康と安全に関するEUの戦略的枠組みにおいてビジョンゼロのアプローチを採用した欧州委員会などと、ビジョンゼロのアプローチを結びつけています。

7つのゴールデンルール

1. リーダーシップを取る。
2. 障害を明らかにする。
3. 目標を定義する。
4. 安全で健康的なシステムを確保する。
5. 機械、設備、作業場の安全衛生を確保する。
6. 資格を改善する。
7. 人々に投資する。

2021年9月にオンラインで開催された第22回世界安全衛生会議には2,000人の参加者があり、人々は労働に関わる事故や病気の削減や、安全・健康・幸福を促進するためのグローバルなビジョンゼロのアプローチを訴えました。この国際会議は、労働衛生研究所（IWH）とカナダ労働安全衛生センター（CCOHS）が主催しました。2022年5月には、第2回ビジョンゼロサミットが日本の主催でオンライン開催され、ビジョンゼロの世界的な魅力をアピールしました。

www.visionzero.global

VISION ZERO

安全・健康・幸福

2021年8月、ISSA予防特別委員会は、新しいビジョンゼロ認定トレーナープログラムを発表しました。これにより、ビジョンゼロトレーニングと7つのゴールデンルールの使用が、新たな戦略的レベルへと引き上げられます。

認定トレーニング

トレーナーは当初からビジョンゼロキャンペーンの大切な一員であり、アプローチに関するナレッジと能力の構築を支援する要となっています。労働安全衛生（OSH）のトレーナーは、ビジョンゼロのウェブサイトに登録し、無料のオンライントレーニング教材を利用することができます。
イギリス労働安全衛生研究所との協力を経て、ビジョンゼロトレーニングは2通りの戦略的プログラムとなりました。

ビジョンゼロ基礎認定トレーニング

非認定の個人的なビジョンゼロトレーニングコースです。

ビジョンゼロプロフェッショナル認定トレーニング

認定されたビジョンゼロトレーニングを提供するコースで、世界的なビジョンゼロネットワークへのプロモーション利用や、トレーナーのオンラインディレクトリを見ることができるものです。
2022年1月以降は、IOSHが提供する認定トレーニングプログラムを受けた人のみが新規ビジョンゼロトレーナーとして採用されています。

www.visionzero.global/trainers

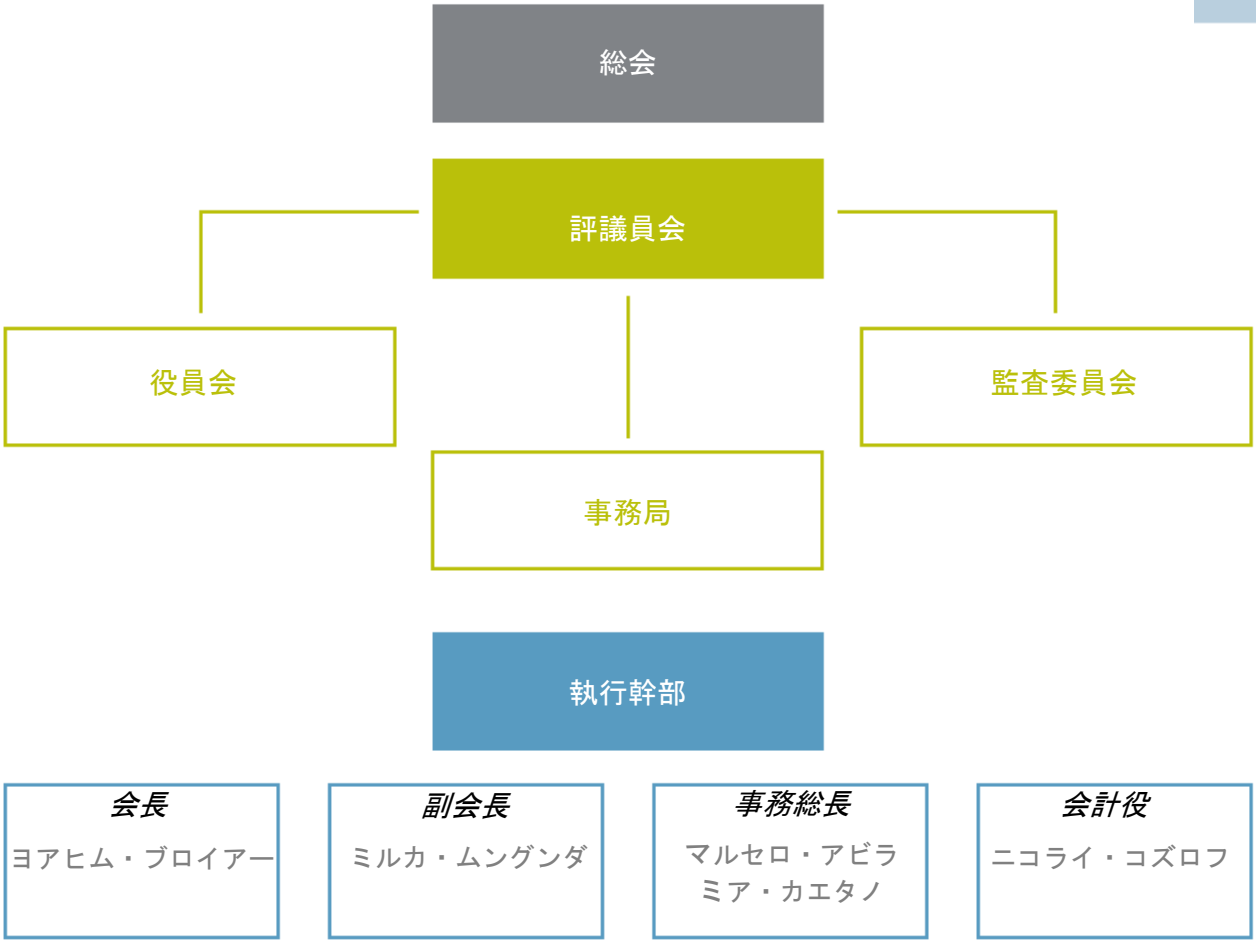
「認定トレーニングが世界の安全と健康を促進し、より安全で健康的な労働環境という私たちのビジョンをサポートします」

アラン・スティーブンスIOSH戦略的協働責任者

ISSA

ISSA のガバナンスと技術的な業務はすべて加盟機関との協働と専門的知見によって成り立っています。ISSA 事務局は42 名の職員と加盟機関からの複数の派遣職員で構成されています。

組織体制とガバナンス



ISSA技術委員会

ISSA技術委員会は、ISSA事務局と密接に協力して、社会保障の管理者や専門家のための高品質な製品やサービスを開発しています。2022年10月の世界社会保障フォーラムに向けて、多くの報告書やISSAガイドラインの新規および改訂版を準備しています。

新規および改訂版ISSAガイドライン

技術委員会は2022年末を目安に、以下のISSA ガイドラインを改定する予定です。

- 社会保障の数理業務
- 適用拡大のための運営上の解決方法
- 社会保障サービスとシステムの継続性と復旧力 *（新規）*
- 社会保障運営によるコミュニケーション情報通信技術
- 人材管理 *（新規）*
- 持続可能な雇用の促進

ISSA技術委員会

- 保険料徴収、納付義務遵守
- 雇用政策、失業保険
- 家族手当
- 情報通信技術
- 労災保険
- 社会保障基金投資
- 医療、疾病保険
- 共済給付組合
- 老齢、障害、遺族年金
- 組織、運営管理、革新
- 政策分析、研究
- 統計、数理、財政研究
- 予防特別委員会

特別部会

技術委員会に加え、次のプロジェクトに特化した2つの特別部会があります。

- リハビリテーション
- 国際情報交換

ISSA国際予防部門

予防特別委員会は、14 の国際予防部門で構成され、職場の労災予防分野において共同活動を行っています。

- 農業
- 化学工業
- 建設業
- 予防、防災文化
- 教育とトレーニング
- 電気、ガス、水道
- 医療、衛生サービス
- 情報
- 鉄鋼、金属産業
- 機械とシステムの安全性
- 鉱業
- リサーチ
- 貿易
- 交通、輸送

オンラインコミュニティ

ISSAは新しいオンライン会員環境を展開しています。パーソナライズされたコンテンツを提供し、他のISSA会員との共有とネットワークが簡単になりました。

My ISSA – My Spaces

新たなオンライン環境には次の2つの部分があります。

My ISSA – 個人用ダッシュボード

新しいMy ISSAは、ISSA Webサイトの個人用スペースです。個人のプロフィールを入力し、次のようなことが行えます。

- 関心のある分野についてトピックの更新を受け取る。
- 登録したイベントや参加したイベントに簡単にアクセスできる。
- ブックマークされたWebコンテンツを検索する。
- 組織のグッドプラクティスを見る。

My Spaces – 共有とネットワーキングのためのスペース

このプラットフォームは、ISSAでの協働レベルに応じて、共有とネットワーキングのためのオンラインスペースへのアクセスを提供します。

- 世界中の社会保障の専門家とつながる。
- 特定のイベントやトピックに関連した共同環境に参加する。
- ISSAの成果物とサービスに関する情報を受け取る。
- ISSA事務局に問い合わせる。

アクセス方法

ISSA Webサイトのメインログイン、または次のリンクからいつでもアクセスできます。

ウェブサイト： **www.issa.int**

My ISSA: **www.issa.int/myissa**

My Spaces: **my.issa.int/directory/spaces**

ナレッジとリソース

ウェブサイト

ISSAの会員の皆様により良いサービスをお届けするため、ウェブサイトの改善を続けています。また、ISSAはオンライン共有とネットワーキングのために、新たなオンラインライブラリーやMy ISSA-My Spacesを準備しています。今まで以上に絞り込んだナレッジ創出となった一方、ディプロマのトレーニングページは以前より簡単にアクセスできるようになり、ユーザーの声、インタビュー、動画などが含まれるようになりました。

www.issa.int

ナレッジ

ISSAのウェブサイトで分析記事を定期的に公開し、社会保障運営のための重要な進展と動向に関する知見を会員に提供し続けています。これらの記事はISSA会員によるウェビナーへの参加、グッドプラクティスの提供、継続的な協力などをもとに制作されています。また、ISSAは昨年、7つの技術報告書と4つの地域報告書を発表しました。

www.issa.int/analysis / www.issa.int/publications

ガイドライン

ISSAガイドラインは、社会保障運営における国際的な基準の指針です。ISSA技術委員会との緊密な協力のもと、2022年10月の世界社会保障フォーラムに向けて多くのガイドラインが更新されました。現在、事業継続と復旧力、人材管理に関する新しいISSAガイドラインを準備しているところです。

www.issa.int/guidelines

グッドプラクティス

オンラインのISSAグッドプラクティスデータベースでは、1,300を超えるグッドプラクティスが利用可能です。これは、ISSA会員機関による、ISSA会員機関のための、独自かつ専用のグッドプラクティスソースです。
2020年から2022年の3年間の事業年度に行われたISSAグッドプラクティス賞の4地域コンテストすべてに、記録的な数のエントリーがありました。

www.issa.int/gp

カントリープロファイル

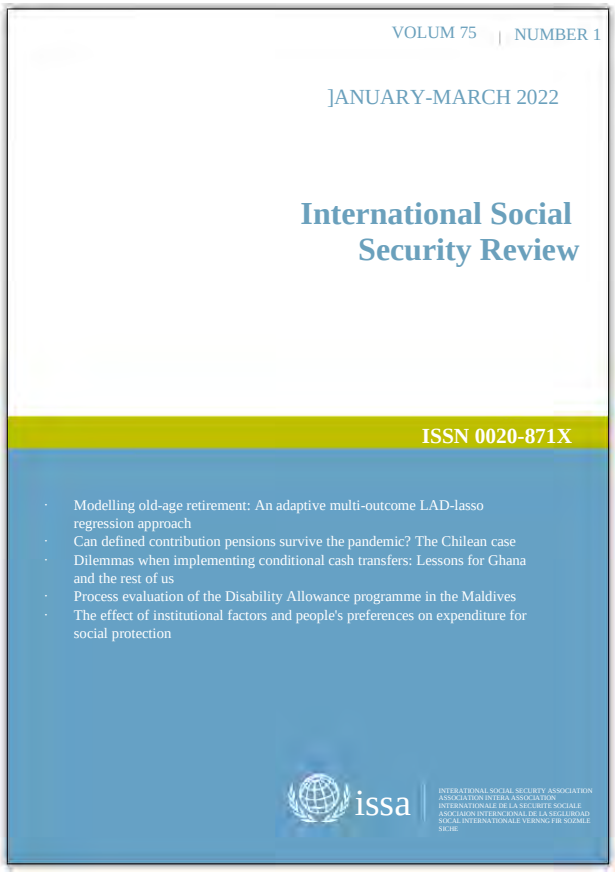
オンライン上のISSAカントリープロファイルは、184の国と地域における社会保障制度とプログラム概要が掲載され、簡単に閲覧・比較できるようになっています。ISSAは、この独自のデータへのアクセスと利用をさらに改善するために、オンラインデータベースのさらなる発展に取り組んでいます。

www.issa.int/country-profiles

国際社会保障レビュー

1948年に創刊された国際社会保障レビュー（ISSR）は、社会保障分野において世界的に重要な刊行物であり、四半期ごとに出版されます。ISSRは2022年春に75回目の出版を迎えますが、その詳細については16ページのインタビューをご覧ください。ISSAの会員はこのレビューに無料でアクセスできます。

www.issa.int/review



Excellence in social security
Excellence en sécurité sociale
Excelencia en la seguridad social
Excelência em seguridade social
Exzellenz in der sozialen Sicherheit
Высокие стандарты управления в социальном обеспечении
التميز في الضمان الإجتماعي
卓越的社会保障

ISSA事務局

Route des Morillons

4 Case postale 1

CH-1211 Geneva 22

T: +41 22 799 66 17

F: +41 22 799 85 09

E: issa@ilo.org

www.issa.int